

造形通信

2023. 5月
NO.60
ひいらぎこども園

新緑の美しい季節になりました。木々の間からは、時折美しい歌声を聴かせてくれる鳥たちにも出会います。まだ5月というのに、夏のような日差しには驚かされます。長かったマスク生活から心も体も解放されるのはいつになるのでしょうか。木々の緑や色鮮やかな花、太陽の光を浴びながら、リフレッシュしたいです。そろそろツバメが飛び交う季節にもなります。ツバメの姿も探したいですね。

繰り返す遊びからひろがる発想

キッチンを作りたい！

2

いつの間にか、できたキッチンの回りに子どもたちが集まってきました。「冷蔵庫はないの？」と声掛けしてくれる子がいて、「冷蔵庫作ろう！」ということに。友達をつぶやきが次の活動に繋がっていきます。

今日はここまで！明日は〇〇作ろう！

1

「キッチンを作りたい！」家族ごっこやご飯作りが大好きなおちゃんは、自分がお料理するのにちょうどよい高さのキッチンを作り始めました。先生と一緒に段ボールを探しました。そして、自分の好きな色を塗ることにしました。塗り始めて、何日かしてやっと大きな流しが出来上がりました。次は、プレイルームに行って丸い空き箱を見つけ、フライパン作り。りおちゃんのキッチン作りは毎日毎日続きました。

次は、レンジを作ろう！

3

しばらくすると、冷蔵庫の中には、いろんなものがはいつてきました。冷蔵庫の扉もちゃんと開きます。自分で満足できると、「今度はレンジを作ろう！」とイメージはどんどん広がっていきました。お隣のピンクの部屋にあった輪飾りの紙を見つけると、「台所にも飾りを付けよう！長いかざりがあるな！」と次への意欲が言葉に出てきました。まわりのクラス活動がキッチン作りにもつながっていきました。

子どもたちが遊びだし、熱中すると時間が経つのを忘れてしまいます。でも、給食の時間になったり、次の活動の時間になったりして今の遊びを中断しなければいけないことが度々あります。せっかく遊んでいたのに、「お片付け！」となってしまうわけです。遊びの内容によっては、そのまま続けていきたいものです。製作過程のものを目の前にして、子どもたちは「次は何を作ろう！」「こんなものを作ろう！」と次のイメージが広がっていきます。活動が連続することで、子どもたちの発想も新しく、膨らんでいきます。『子どもたちは楽しいから活動が続く、活動が続くから発想が膨らむ。』そんな活動がお部屋でたくさん生まれると素敵ですね。りおちゃんのキッチン作りはこれからも続きそうです。ちょっとのぞいてみたいですね。

パス1本で生まれる笑顔



おひさまひろばから職員室を眺めていたれんげ組のお友達に、園長が1本のパスを差し出すと、うれしそうにパスを受け取ります。大きなアクリル板を置くと、次々と子どもたちが集まってきました。キャッキヤと声を出してパスを持つ手を動かしていく子。すぐぐるぐると描き出す子。あつという間にアクリル板は色とりどりのパスの線がいっぱいになりました。たった一本のパスと自由に描けるスペースがあるだけで、子どもたちは笑顔になります。安心して楽しめる空間を作っていきたいものです。

いつの間にか、楽しいキッチンコーナーができてきました。